

「ベトナムの現状、人材教育や 研修生制度について —現実の問題点と解決策の紹介—」

ドー・ヴァン・ユン氏
ベトナム日本ビジネスクラブ (VJBC) 会長

2018年8月講演

1. 人手不足の日本、若い人が多いベトナム。

こんにちは、ドー・ヴァン・ユンと申します。私は日本の大学を卒業し、日本・ベトナム間の貿易に40年くらい携わり、投資コンサルタントもしています。VJBCはベトナム日本友好協会傘下のクラブであり、日本とベトナムの企業をマッチングして、日本企業がベトナムで安心してビジネスができることを願って設立されました。

40年ほどの経験の中で、私のベトナム人の仕事仲間は会社の幹部から次第に偉くなり、今では大臣になっている人もいます。そんなわけで、私はもう定年になっていますが、いろいろ頼まれてお手伝いすることがあります。

先日、池島政広先生のご依頼で技能実習生について話すための資料をまとめたり、雑誌に執筆しました。その中で私が強調したかったのは、日本ではこれから人手不足になる一方で、経験豊富な人たちがたくさん定年を迎えます。逆に、ベトナムは非常に若い国であり、国民の平均年齢は28歳くらいです。また、人口は9200万人と、ちょうど高度経済成長が始まった頃の日本と同じくらいです。これから、一人の実業家としての意見であり、理論的に不十分かもしれないので、お許し下さい。

ベトナムと日本は、似ている点がたくさんあります。ベトナムを訪れた日本人は料理がおいしいと言います。中国やインドの料理は香辛料をたくさん使いますが、日本とベトナムの料理は、素材の味を生かす及び薬なるといふ基本的な考え方が共通です。ですから、魚料理は魚の味がします、チキン料理はチキンの味がしますし、またそれぞれの素材には合う野菜が別々にあります。

これは、日本人が書いた、ベトナム人の性格のいいところだと思います。私は、日本人と似ていると思います。例えば、「勇気がある」。私が日本にいたときは、映画を見てもアニメを見ても「正義の味方」が主人公でした。また、日本で

有名なのは侍です。ベトナムにも“正義の味方”英雄主義があります。

こちらのほうは、ベトナム人の悪い性格です。目先の利益を優先するとか、ウソをつくとか。ベトナムという国は周囲に敵が多かったのも、ウソをつかないと危険だったのかもしれない。私は学生に教えていますが、絶対にウソをついてはいけないと話します。実際には、ベトナム人全員がウソつきではなく、私のようなバカ正直な人間もいます。

日本人が一番嫌いなのは、ベトナム人と時間の約束をしても、いつも遅れて来ることです。これは直さなければいけない。ただ、われわれは農民だったので、のんびりとした悪い癖があります。特に国の南部は自然に恵まれており、穀物がたくさんとれるので、あまり一生懸命働かなくても食べられたという環境があります。プライドが高いから相手に欲を見せないのも多いでしょう、しかし、国を工業化していくと、時間と信頼関係を守らないとやっていけなくなります。

2. 技能実習生制度の問題点

ベトナム経済の特徴の一つは、タンス預金です。戦争が多い国だったので、代々にわたって金塊を貯めこんで、いざというときはそれを持って逃げました。ですから、皆さんもご覧になっているかと思いますが、給料はそれほど高くなくても、バイクや自動車や家まで現金で買うのです。日本人には想像がつかないでしょう。

例えばバイクを買おうと思ったら、両親も祖父母も親戚もみんながタンス預金をしているので、そこからもらった借りたりしてかき集め、一括で支払うのです。車や家も同様です。

ベトナム国民は、銀行をあまり信用していません。日本の経済成長に、銀行の果たした役割は大きかったと思います。銀行に、社会の富の蓄積があったからです。ベトナム

はこういう状況なので、銀行ローンなど銀行利用は一般大衆に普及されていません。

先ほど少しお話しした技能実習生は、これからますます増えていくでしょう。日本で実際に仕事をしながら学び、その経験をベトナムに持って帰って仕事をする。また、日本の法律に基づいて、日本滞在して働き続けるということは、両国民が望んでいることです。特に、日本は人手不足で、ベトナムでは余っている状態ですから。

問題は、実習生が日本に行くためには5000ドル、時には1万ドルの“経費”も必要だということです。そのため、祖父母か親戚から借金をして行きます。実習生を斡旋する会社は、日本へ行って働けば儲かるから返済できると言いますが、実際には給料はそれほど多くないし、いろいろな費用がかかって返済できなくなったりします。困った実習生が泥棒をするといった大きな問題も発生しています。

ベトナム人の技能実習生制度は、いろいろな問題を抱えています。一つには、資格のあるベトナム人の教員や日本人教員の不足です。日本語学習の授業時間も少なく、1人ずつの練習時間も非常に短いため、日本語をなかなかうまく話せるようになりません。職業訓練の時間も不足しています。こうした状況を、日本とベトナムの政府はどうしようとしているのでしょうか。

日本には、「郷に入れば郷に従え」ということわざがあります。ベトナム人が日本へ行ったら、日本社会のルールに従うことが必要です。私が日本の社会に溶け込めたのは、最初から、日本のルールを守り、日本人からのアドバイスを受けてやったからです。

逆に、例えば日本人が米国へ行ったら、米国の習慣に従うのは当然ですよね。私たちの時代には、日本は米国からよくいじめられました。今でもそうではないかと思いますが、ベトナムも同じ状況でしょう。米国だけではなく、中国からもいじめられているのですから。つまり日本とベトナムは同じ環境です。

3. 日本とベトナムの明日のために

文化面や社会面から考えてみましょう。日本人もベトナム人も、正義の味方という言葉が好きでした。また、日本は人手不足で、平均年齢が28歳と若いベトナムには人手があり、これらを組み合わせた技能実習生は交流の足がかりとなり、国際貢献になりました。私もその一人でした。

それから、大乘仏教、儒教、そして神道。ベトナムでは、どこの町へ行っても神様がいます。家の中には家の神様、土地の神様、木の上にも神様がいます。おそらく神道の八百万の神とは異なりますが、神様はどこにでもいるとベトナム人は信じています。

社会面では、因果関係。それで、日本の会社は社会貢献というスローガンが多いのです。社会貢献が、結果的には経済利益のためであり、それをみんなで平等に分けるのが日本の特徴です。ベトナムでは、利益を個人が独り占めするのは少し悪いことだと、最初から思っています。そういうことは経済をまだ理解していない人がやっているのであって、理解した人は「みんなのためになる」というスローガンのほうが効率的だと思っています。

ベトナム人は日本が好きです。しかし、実習生は“送金”目的で、日本企業は“コストダウン”の目的だといいます、互いに“利益衝突”です、この“衝突”の原因は他にあると思います。(1)仲介層を減らすのは可能でしょうか？(2)効率のいい実習生訓練学校がないか？(3)日本の受け入れ企業の待遇がより明確にできるか？やはり効率のいい人に高い給料を払えば、もっと効率が上がる。ですから、実習生に一定の国際レベルのキャパシティーを教育すれば、日本にとって優秀な人材を確保できるようになるでしょう。そして、待遇問題、最近シンガポールは人材招聘が上手と言われています。これは欧米、特に米国ではよくやっていることで、他国がやってることを見て、人材は待遇がいいところに集まります。

日本では、熟練工の厚い層が高度成長の基礎になりました。私は、まず実習生が熟練工になってほしいと思っていたのですが、池島政広教授とお話ししたところ、そういった考えや経営・管理の知識は必要だろうとのことでした。また、早稲田大学の教授で、日本の瑞宝章を受章したベトナム人のトラン・ヴァン・トー教授によると、日本民族のプライドが熱となって国民に伝わったから日本の高度成長が成し遂げられたのではないかとのことでした。私も同感です。しかし、今日本ではこの熱は冷めてしまいましたから、日本経済が停滞してきたでしょう。また、戦後のベトナムには（戦争に勝ったから？）こういう熱がなかったもので、経済成長が遅れてしまいました。

かつて私が日本に留学したとき、日本では600人くらいのベトナム人留学生が学んでいました。そのうちの100人くらいが、その後成功しました。例えば、日本で会社を作って、子どもの心臓や呼吸に補助する機械を開発して医学に貢献した人がいて、天皇陛下が工場視察に訪れました。ほかにも、たくさん例があります。

安倍首相は、2025年までに外国人労働者50万人を目指すとして6月5日に言いました。そのためには、いろいろな改革が必要になります。その実習生資料がたくさんあって、私はそれを時々読みました。これは私のアイデアで、笑われるかもしれませんが、新しい動きは本当は民衆から始まるのです。民衆から労働者、経営者へ、知識人へ、そして官

近代一國社会能力の構成 (Just Idea)

階層	職業	望ましい性質	望ましい能力	大事な素質
第一層	政治家	減私奉公	経済成長刺激に有効な政策	近代世界事情による愛国心
第二層	官僚	イーガブなど効率的な社会管理	適応性がある行政体制	近代世界基準のトランスペアレント・公平・清潔
第三層	知識人・経営者	従業員の意欲と能力を刺激する経営・管理のあり方	連続革新を追求	世界市場のトレンドを先駆
第四層	労働者	熟練	連続革新の実現	近代世界レベルの基本教養

*世界のトレンド：AI、Smartphone、Smart City、Smart Robot、Smart Car ...

*大企業でもトレンドに乗れないと破産する。中小企業でも先端技術を持っていれば世界を支配可能です。実習生の教育及び活用もこれの例外ではないと思います。

僚や政治家へ。それぞれの層はどのような性質が望ましいかという、政治家は国民のニーズを理解し、そしてリードする能力。経済成長刺激策や愛国心も必要です。お金の愛を愛するようになると、大変なことになります。

60歳以上の方は「灰色高官」という言葉を聞いたことがあると思います。40数年前、私が日本の大学の2年生か3年生の時に、日本で金権政治という問題が起きました。お金のための政治、あるいはお金を出して官僚の地位を買う。つい昨年まで、ベトナムは金権政治でした。日本で起きたことは、ベトナムでも起きます。

今のベトナム政府は、灰色高官だけでなく、賄賂を受け取った人は摘発するといっています。賄賂が全くない国はなく、多いか少ないだけで、できれば少なくして欲しい、日本で賄賂を受け取ったのは高官だけでしたが、悪いことに、ベトナムでは上から下まで賄賂を受け取っていました。町の警察官でも賄賂をもらうのが習慣のようになっていましたが、これからは一掃するという政策が出されています。

官僚は効率的に働いているでしょうか。ベトナムでは、まだ効率的に動いていません。ODAなど日本からの支援で、例えばベトナムにハイテク工業団地をつくるという合意が両政府の間でなされても、効率が悪くてほとんどが遅れていました。これはベトナムの官僚のせいでしょう。

しかし、一國社会の多数の人口は第三層と第四層に属していて、実際に同じ層にしてもよいと思います。企業と大学（知識人）と経営者・労働者が協力して生産拡大・生産性向上することは今の社会のメイントレンドとなり、経済成長のため政策と優待策を政府に提出する。実際、政府（政治家及び官僚）はそれぞれ意図があり、彼らと合う提出を採用し、合わない提出を否定するから、そこで議場闘争になる。近代世界の政府組織の仕組みだと思います。

あくまでも一國社会の基盤は第三層と第四層で、主に民間です。知識人・管理職及び熟練工、そして労働者の意欲と能力を刺激する経営・管理のあり方“新しい経営・管理方式”がベトナムの運命を決めることになるのではないかと思います。若い国のベトナムは労働意欲及び消費市場が今後も発展するでしょう、日本だけが労働者不足ではなく、近隣の諸国、中国から工場移動するトレンドによってベトナムさえも、労働者不足になるでしょう。問題はどうすれば素早く熟練工及び“新しい経営・管理方式”を教育できるかがキーだと思います。

この第三層、第四層（熟練工）と新しい経営・管理方式がものを生産し、社会の富を作り上げます。今後も、日本とベトナムが民間同士でもっと緊密に連携すれば、両国の利益になるというのが私の結論です。

ありがとうございました。